

平成31年度(令和元年度)「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　名	中央区
学 校 名	大阪市立開平小学校
学校長名	赤銅久和

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・開平小学校では、第6学年 19名

平成31年度(令和元年度)「全国学力・学習状況調査」結果の概要

[国語]

○平均正答率は、どの領域も大阪市及び全国平均を上回っている。平均無回答率の割合は、大阪市及び全国平均よりも低い。

[算数]

○平均正答率は、どの領域も大阪市及び全国平均を上回っている。平均無回答率の割合は、大阪市及び全国平均よりも低い。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

☆今回の調査では、[国語][算数]のどの領域においても、大阪市及び全国平均を上回る結果であったのでこれまでの取組を維持・推進する。

○各教科で協働的な学びの場一層充実させたり、ICTの効果的な活用を図ったりしながら、言語力の育成をより一層進めていき、それらの活動を学力の向上につなげていく。

○児童一人一人の基礎的・基本的な知識と技能の確実な習得と定着をより徹底するために、指導方法の工夫や学習環境の整理、学習教材の開発を積極的に進め、学力向上につなげていく。

○個に応じた指導の充実をより一層図り、児童の習熟度に応じた学習活動を行っていく。また、学級分割習熟度別指導やT.T.をより一層効果的・計画的に実施していく。

質問紙調査より

○自尊感情・規範意識について

- ・「自分には良いところがありますか」の質問に、肯定的回答をした児童が大阪市及び全国平均を下回った。

- ・「学校の決まりを守っていますか」の質問に肯定的な選択をした児童の割合は大阪市及び全国平均を下回った。

○基本的生活習慣・言語力の育成

- ・基本的な生活習慣には課題が見られる児童が増えてきており、「健康・体力の増進」に向けた取組の充実とともに、家庭との連携が今後も必要である。

今後の取組(アクションプラン)

○個の特性をとらえ、習熟度別少人数指導、T.T.、課題別学習など指導法について一層計画的に実施することによって、児童の実態に応じた指導の充実を図る。

○基本的な生活習慣が身についていない児童が増えてきている。「健康・体力の増進」に向けた取組の充実のため家庭等との連携が今後とも重要である。

○自尊感情を育み一人一人を大切にした人権教育の充実と、規範意識を醸成するため道徳教育の充実を図る。

○基本的な生活習慣の確立に向け継続的に取り組み、保護者に対する啓発を図る。

○日常生活においても、より的確に考え、判断して行動できるよう、一つ一つの考え方や行動を振り返り、その妥当性を評価することができるようとする指導に重点を置いていく。